



コマ印管継手

No.SL-0701
株式会社リケン
配管機器部
製品開発課

MRジョイントⅡ 施工上の注意事項 (ステンレス管接続の場合)

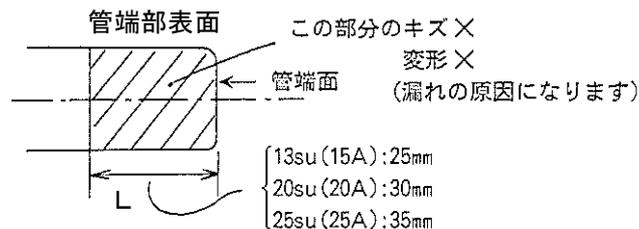
MRジョイントⅡ継手にてステンレス配管を施工する際に、ご注意していただく内容を過去の施工不具合による事故事例を踏まえて下記にまとめました。

施工要領書と合わせて内容をご確認いただき、ご注意下さいますようお願い致します。

1. 管端部に傷や変形のないことを確認して下さい。

管端部表面(下表 L の範囲)に傷があると漏水の原因となります。指の爪が掛かる程度の傷は、漏水する恐れがあります。

また、管端部が変形していると継手に管が挿入できなくなります。



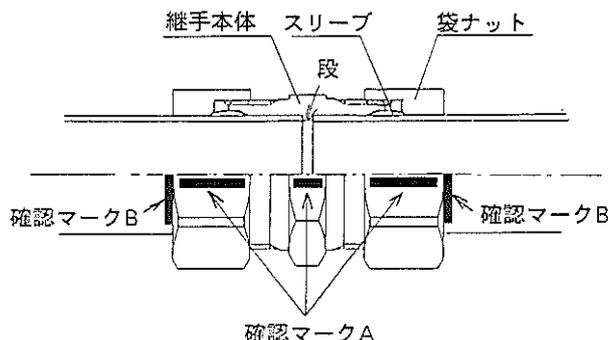
2. スリーブの取り扱いに注意して下さい。

止水部品兼、管の抜け止め部品である「スリーブ」は、軟質材のため変形や傷が付き易い為、取り扱いに注意して下さい。

施工前に継手を分解し、スリーブを落下させたり、施工前に不用意に袋ナットを強く締付けるとスリーブが変形してしまいます。スリーブを施工前に変形させてしまうと管を継手に挿入する際に、管が正常に奥まで挿入できなくなり漏水の原因となります。

3. 手締め時の「確認マーク」付け(マーキング)は必ず行って下さい。

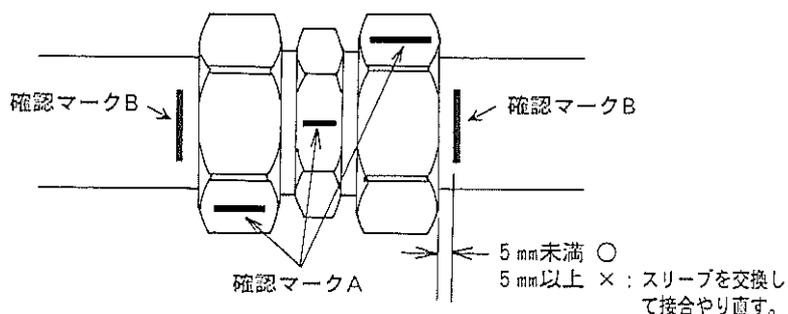
確認マークは、締付け量(袋ナットの回転数)の管理及び作業中の不用意な管の抜け出し確認のために必要な目印です。必ずマーキングを行って下さい。



4. 袋ナットの締付けは、必ず規定量行って下さい。

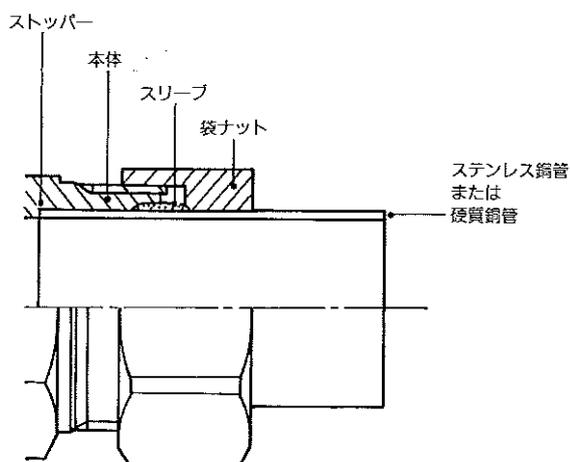
袋ナットの締付けに過不足があると、漏水の原因となります。
締付け量は、下表によります。

管 種	手締め後の袋ナット締付け回転数
ステンレス鋼管	1-1/6 (1回転+1/6)



5. 袋ナットの締付けの際は、必ず本体を固定し、袋ナットを回して締付けて下さい。

本体を回して締付けると、本体とスリーブの当り面で摩擦によりスリーブに傷が付き、漏水の原因となります。

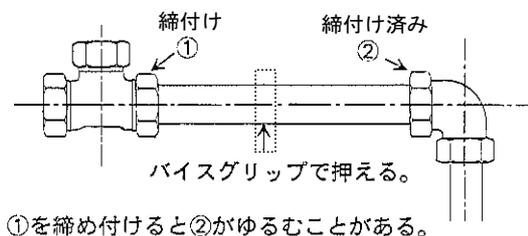


6. 本体及び袋ナットのレンチ掛けは、ガタツキが無いよう固定して下さい。

本体及び袋ナットのレンチ掛けが緩いと、レンチ掛けが滑り継手に変形し漏水の原因となります。また、変形の生じた継手は使用しないで下さい。

7. 管の共回りに注意して下さい。

図のように①の袋ナットを締付ける際に、管が共回りし②の袋ナット(締付け済み)が緩むことがあります。このような場合には、管をバイスグリップで固定し、①の袋ナットを締付けて下さい。



8. 配管の角度調整をする場合には、管を無理に回さないで下さい。

配管の角度調整の場合には、一旦、袋ナットを緩め、管を継手から抜き角度調整した後、袋ナットを再度締付けて下さい。

この時、正規締付け量(1回転+1/6)よりも更に1/6回転増し締め(合計締付け量:1回転+2/6)して下さい。この角度調整は、1回限り可能です。

9. 施工後は配管に外力を与えないで下さい。

施工後に、配管の上に乗ったり、曲げたり、回したり等の外力を与えないで下さい。漏水の原因となります。

以上